

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 浦添市国際交流協会（都道府県：沖縄県）

1. 当該地域の情報（令和 6年 1月現在）

地域の課題	浦添市内には外国人留学生向けの日本語学校が1校あるが、そこに通う留学生と地域の交流はほとんど見られない。また、留学生以外の在住外国人数も年々増加しており、地域での受け入れ態勢を整える必要性が高まっている。具体的にどのようなニーズがあるのか、外国人側、日本人側それぞれの立場からのニーズの把握をすることがまずは必要であると考ええる。同時に、日本語教室の必要性を地域社会に広く知ってもらうことも重要な課題である。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】1,661人 【外国人比率】1.4%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】ネパール851人 中国134人 米国116人 フィリピン88人 インドネシア72人 ベトナム68人 韓国64人 ミャンマー59人 台湾37人 スリランカ25人 ※上位10件まで 【在留資格】留学694人 永住者252人 技術・人文知識・国際業務154人 日本人の配偶者等120人 家族滞在99人 特定技能1号90人 技能実習1号ロ71人 技能実習2号ロ36人 定住者25人 特別永住者22人 ※上位10位まで 【滞在年数・在留期間などの状況】 留学生に関しては留学期間6ヶ月～2年、その後は専門学校、短大、大学へ進級する者もいると考えられる。具体的な情報は浦添市市民課へ問い合わせるも、個人情報にあたるので情報提供不可との回答しか得られず。
在住外国人の日本語教育の現状	日本語学校へ通う留学生は問題ないとする。沖縄の日系2世、3世はカタコトの日本語は理解している印象だが、配偶者が日本人の場合は配偶者のサポート次第で日本語レベルに差があり、多少の問題はある。特に子供がいる場合は課題が大きい。 技術・人文知識・国際業務、家族滞在がどれくらいの日本語レベルであるのかデータなし。特定技能1号、技能実習1号ロ、技能実習2号ロ、に関しては受け入れ側より日本語教育の機会は与えられているのではないかと予想する。 定住者、特別永住者に関してはデータなし。

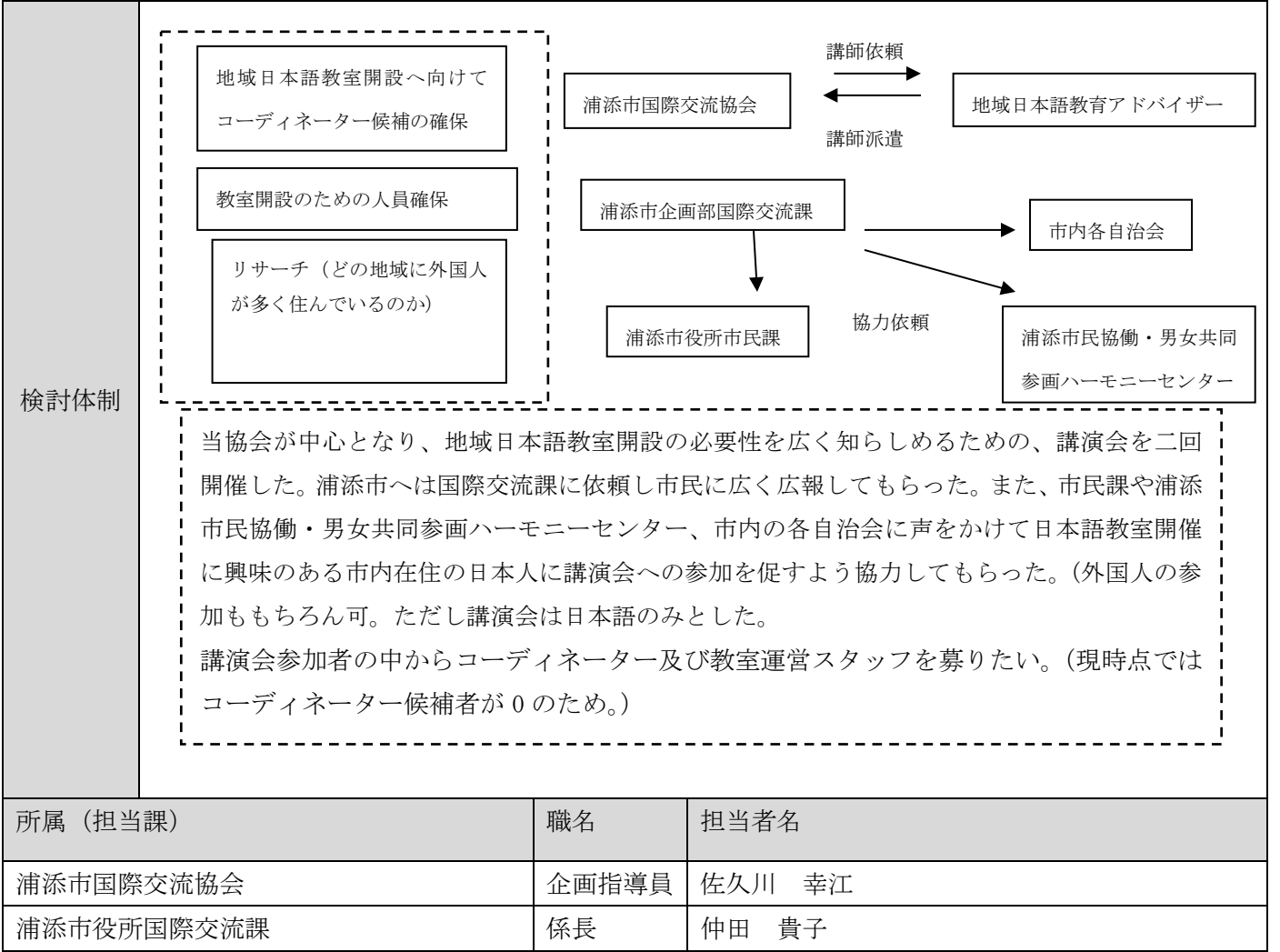
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	浦添市内在住外国人のための地域日本語教室開設に向けての準備			
事業の概要	・有識者派遣コースを利用した講演会の実施 第1回目 開催日時：2023年9月29日（金）19:00～20:30 講演内容：「あったらイイネ日本語教室」講話者：米勢 治子 氏 開催場所：浦添市ハーモニーセンターホール 第2回目 開催日時：2023年11月12日（日）13:30～14:30 講話者：萬浪 絵里 氏 講演内容：「地域の多文化共生」～日本語教室がつなぐ地域と外国人～ 開催場所：浦添市ハーモニーセンターホール 主催：浦添市国際交流協会 共催：浦添市国際交流課			
事業の対象期間	令和5年6月～令和6年3月			
担当アドバイザー（講師）	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	米勢 治子	東海日本語ネットワーク	副代表	継続・●新規（1年目）

	萬浪 絵理	特定非営利活動 法人国民活動市 民中心(CINGA)	理事	継続・●新規（1年目）
--	-------	----------------------------------	----	-------------

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	アドバイザーの来訪
令和5年 5月	9月の講演会開催に向けて講師派遣依頼など開催準備を進めた。会場予約（仮押さえ）	
令和5年 6月	地域日本語教育アドバイザー候補者が上がる ・萬浪(まんなみ) 絵理アドバイザー ・米勢(よねせ) 治子アドバイザー	
令和5年 7月	1回目（月/1）検討会議を実施 ・浦添市役所国際交流課主催、令和5年度「やさしいほんご教室」スタート。（事業外で実施） ・地域日本語教育スタートアッププログラムオリエンテーションへオンラインで参加。	

令和5年 8月	第1回講演会用のチラシ(仮)作成、協会H.P、SNS等で参加者募集開始。当協会の他事業においても参加の呼びかけを開始した。	
令和5年 9月	・9月初旬、第1回目、第2回目 講演会日程、担当コーディネーターが決定したとの連絡を受けた。 ・9月中旬、進捗状況の共有講演会を周知するチラシ、講話内容を決める前に浦添市、近隣における日本語教育の現状、協会の位置づけ、役割事業紹介他。アドバイスをもらうためにオンラインミーティングを行った。 ・朝ミーティング持った(講演会にて紹介する当協会の紹介内容に変更が生じたため、修正などの確認のため) ・9月29日(金)第1回目 講演会開催	9/15(金)1時間30分 オンラインミーティング実施。 チラシ作成に伴う助言もあり、(プロフィール、レイアウト、語彙など) ★9月29日 午前講演会当日ホテルロビーにて 朝ミーティング ★講演会1時間30分
令和5年 10月	・10月中旬、第2回目講演会へ向けてオンラインミーティング 浦添市、近隣における日本語学習についての情報提供、共有、参加申込者情報の共有、前回(9/29)の内容を踏まえて講話内容の確認。 ・講演会用チラシ、広報に関する助言、調整。	・10/13(金)1時間 オンラインミーティング実施。 ・10/18(水)1時間 オンラインミーティング
令和5年 11月	・11月12日(日)第2回目講演会実施。 ・講演会終了後振り返り、ワークシートのシェア 浦添市国際交流課、協会職員との意見交換	★来訪 講演会1時間30分 ★来訪 振り返り 2時間
令和6年 1月	2回の講演会を終えての最終振り返り会を実施すべく日程調整をする 2月下旬に決定	
令和6年 2月	2月21日(水)最後の振り返り会を実施。	・オンラインミーティング実施 報告書作成、提出の締め切り期日を考慮してお二人のコーディネーター揃って、オンラインミーティングを実施した。
令和6年 3月	・業務日報、精算業務。 ・報告書作成。	

【主な活動】



第1回目 9/29 講演会
米勢コーディネーター
による講話



グループワークでは、「どんな日本語教室があったらいいか」、「日本語教室の名前」、「開催日」、「開催場所」、「対象者」を各グループで話し合った。



それぞれのアイデアを
発表してもらった



第2回目 11/12 講演会
萬浪コーディネーター
による講話

グループワークでは、「言語が全く分からない国（文字も含めて）に貴方が行ったとしたら、どんな事に困りますか？言葉が分かるようになったら何をしたいですか？」を各グループで話し合った。

グループワークで出した
意見をスクリーンに投影してシェアリング

（2）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
浦添市主催 やさしい日本語講座 （にほんごではなすともだちをつくろう！） ～やさしいにほんごでやさしいコミュニケーション2023 （事業外で実施）	令和5年7月～12月（全10回）	浦添市が主催するやさしい日本語講座へ全10回当協会よりスタッフが参加し、サポートをした。企画内容への助言、会場設営、片付け、ファシリテーターの補助を行い参加者が発話しやすい雰囲気作りに貢献。 【内容】（全10回、1回1.5時間）（担当：川野さちよ） アイスブレイク&自己紹介（毎回） テーマ： 好きなもの（こと）・きらいなもの（こと）、私のおすすめ沖縄マップ、「できること・できないこと」、よく見る番組（テレビ・サブスク・SNS）、魔法が使えるとしたら何がしたいですか？、私の好きな&きらいな行事・イベント、わたしが沖縄県知事になったら、私ってどんな人？わたし地図 あなたはサンタさん・誰に何をあげたい？・ちょっと寄り道 どこに行きたい？ 参加者が回を重ねるごとに顔見知りとなり打ち解けて世間話をしたり、情報交換などをする場面が毎回みられて目標達成の第一歩となった。
JICA 沖縄主催 おきなわ国際協力・交流フェスティバル （事業外で実施）	令和5年11月25日（土） 10:00～18:00 （8時間）	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、同市で開催されたおきなわ国際協力・交流フェスティバルにブース出展した。当日は3,000名を超える来場者があり（主催者発表）当協会の取組を説明し理解促進に一定の効果があったと考えられる。
JICA 沖縄主催 ふれあい講座 （事業外で実施）	令和5年 偶数月 第3金曜日 19:00～20:30 6/16, 8/18, 10/20, 12/8, 2/16 （全5回）	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、JICA 沖縄で開催された「ふれあい講座」にブース出展し、当協会の取組を説明し理解促進に一定の効果があったと考えられる。特に6月・8月・10月に関しては講演会開催の周知ができ、PRに繋がった。
料理講座 語学講座（中級英語） 語学講座（韓国語） キッズえいご 南米子弟研修生と茶話会 ハロウィン体験 （事業外で実施）	7/9, 9/19,（日） 7/6, 13, 20, 27 7/5～9/6 全8回 9/16（土） 10/6（金） 10/15（日）	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、JICA 沖縄で開催された「ふれあい講座」にブース出展し、当協会の取組を説明し理解促進に一定の効果があったと考えられる。特に6月・8月・10月に関しては講演会開催の周知ができ、PRに繋がった。

5. 今年度事業全体について

進捗状況	●異文化学び体験事業（語学講座、料理講座、キッズえいご、ハロウィン、クリスマス） ●国際交流事業（JICA ふれあい講座、JICA おきなわ国際協力・交流フェスティバル、浦添市南米子弟研修生を囲んでの茶話会、New Year 祭り） - 多文化共生事業（浦添市主催 やさしい日本語講座、日本語教室開講準備講演会、フードバンク UIRA） ●活動支援事業（サークル支援&スペース支援） 全て開催することが出来、参加人数も講座やイベントの規模によって差はあるが収支上納得のいくものであった。
事業推進にあたり問題点と対応策	①事業を打ち出す中で参加者人数が少なければマイナス収支となる。対策としてチラシを公共施設へ掲示依頼、SNS を活用して P R を積極的に行う、他団体へもメールや他団体の催すイベント等へ顔を出し情報拡散、共有を依頼する。 ②浦添市（国際交流課）との連携不足を今年は強く感じた。理由として人事異動がありこれまで関わっていた職員が他部署へ移動となりサポート体制の引継ぎが上手く機能しておらず、関係性を一から築くことになり大変やりにくさを感じた。対策としては事業に関することは常に連絡、情報共有をし、信頼関係を深めていくことが次の事業への土台となる。
成果	様々な事業、イベントを展開していく中で、参加者のリピーター（当協会を応援してくれるファン）が増えていることも事実である。事業アンケートから色々な講座、イベントを開催して欲しい、との意見が多数上がっており、かなり期待されていることがうかがえる。
地域の関係者との連携による効果	行政のサポートが弱いので同じような目標を掲げる他団体との連携が強くなり、方々から事業への取り組み方をヒアリングしたいと注目され、期待されているのも強く感じる。他団体より「何か一緒にイベントを起こしましょう」との声掛けも増えてきている。
アドバイザーの主な助言	すでに持っているネットワークを生かして、まずは日本語教室開講準備として ・どの地域にどんな外国人が在住しているのか？（国籍、在留資格、年齢層）などのリサーチをすること。 ・自治会、学校、などからも情報を集めること ・応援してくれる人と関係を継続していくこと（講演会を経て得た人材） ・行政側にもアプローチし続けること ・予算確保のために補助金を得られるように準備は怠らないこと
今後の課題	・令和6年度の事業 「日本語教室開講」にむけて、開催時期、回数、場所、時間、人数計画（企画）を早急にする。 ・アドバイザーからの助言のあった「外国人にかんするリサーチ」をする（アンケート内容、配布先、回収の仕方、どこへ依頼するか、いつ、）詳細を決め協力者を増やす。 ・予算確保のために補助金だけにたよることのないよう、賛同する団体、企業、をどう増やしていくか考える必要がある。 浦添市がもっと積極的に「多文化共生」「日本語教室」にむけて具体的に市策としてサポートするように働きかける。

今後の予定	(1)今後の日本語教育事業の展開について ①日本語教室の展開 ・3月後半、次年度（R.6年度）にむけての事業計画のためのミーティング。 ・4月地域自治会、コンビニ多方面へ直接足を運び外国人のニーズ調査をする。企画準備へ取り掛かる。 ・ボランティア募る。 ・5月チラシ作成、広報活動。 ・6月から月に1回（1.5～2h）程度、読み書きを中心とした【にほんご教室】をスタートする予定。 ②日本語教室の実施主体と行政の関与について 主催は浦添市国際交流協会とし行政（浦添市）は共催を依頼する予定。実施会場を確保するため、必要に応じて行政へ支援をしてもらう。 ③財源の確保について ①（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団による人材国際交流団体助成事業（助成金）へ応募を考えている。 ②企業会員や市内近隣の店舗、企業へ寄付・協賛を依頼すべく趣意書、日本語教室チラシを作成、配布する。 ③文化庁以外の助成金の情報を収集。 (2) 今後の予定 企業会員を増やすことで収入増加につなげ、日本語教室の予算確保に努める。
--------------	---

本件担当： 浦添市国際交流協会 企画指導員 佐久川 幸江